

【Aグループ 生活支援関係】

1.ライフステージ, 目標	ライフステージ	成人期
	目標	



2.課題解決および連携に必要なもの	3.資源と役割	4.実現に向けて取り組むこと	
他職種の連携、医療を含めた ・他機関とのネットワークづくり、紹介（子供・若者連携協議会とも被っている） ・来所できない人へのアプローチ（多いのではないか） ・立ち直り後の維持・支援をしてもらえる所 ・アセスメント・スクリーニング力の向上（機関同士の丸投げ） ・無理な依頼を受けて今後につなげる	【自分たちの出来ること】 相談+実働部隊（地域の中で動ける人）	短期	中期～長期
	【協力をお願いしたいこと】 医療と支援者間での連携		
居場所作り、ピアカウンセリングの充実（アセスメント機能になる） ・障害状況の正しい理解に基づく正しい支援 ・情報共有し易い体制づくり ・各機関の支援内容の共通理解 ・受診できる医療機関 ・生活とセットで見れる ・アセスメントの共有→難しい	【自分たちの出来ること】	短期	中期～長期
	【協力をお願いしたいこと】		
個別支援（アセスメント含む） ・個人の居場所→ピアカウンセリング的な場 ・まず医療になってしまい、福祉にのってくることが少ない	【自分たちの出来ること】	短期	中期～長期
	【協力をお願いしたいこと】		

1.ライフステージ, 目標	ライフステージ	成人期
	目標	市内の就業支援機関のネットワーク化

2.課題解決および連携に必要なもの	3.資源と役割	4.実現に向けて取り組むこと	
		短期	中期～長期
<p>・支援内容（どうい支援）・機関の特色を出す →イメージが浮かびやすくなる、次に繋げやすくなる</p> <p>・情報共有、ケース会議</p> <p>①企業のトップの集まり、事業所の核となるもの ②医療（困ったときは医療に繋げる、症状に苦勞している、ワーカー・保健師、PSW） ③行政 企業局 まとめ役 連携した事業、体制づくりが大事、地道に定期的な集まりを重ねる</p>	<p>【自分たちの出来ること】</p> <p>【協力をお願いしたいこと】 障害者福祉課と商業労政の連携が必要→若者のUターンに注力</p>		
<p>・代表者のメアドの共有 誰がリーダーとなるのか、まとまるために必要 細分化されているように見えるが、実際の支援ではまとまっていない 情報整理し、周知する</p> <p>巻き込まれは相談者を救うところがあるとい い（受け止めるところがネットワークであれば・・・）</p>	<p>【自分たちの出来ること】</p> <p>発達障害は多岐にわたる （精神・知的障害）</p> <p>【協力をお願いしたいこと】 ノウハウの蓄積、アセスメント ☆就労モデルとして情報共有し、活用</p>		
<p>・商工会議所 企業同士の情報をオープンにする、支援機関の力がつく</p> <p>・ハローワーク 手帳ありきになってしまう、情報が流れやすくなる</p>	<p>【自分たちの出来ること】 支援方法の検討→ワークステーションでやっている（市役所だからできる、実験的（どうい方法を使うか）なところ、方向性を試せる）</p> <p>【協力をお願いしたいこと】 ・事業所毎取りまとめるところが集まり、議論する必要がある ☆行政が仕掛ける→役割整理 自立支援協議会でくっついている、すぐに体制はできない、会議を広げれば様々な課題に対して取り組める</p>		

【Cグループ 教育関係】

1.ライフステージ, 目標	ライフステージ	成人期
	目標	

2.課題解決および連携に必要なもの	3.資源と役割	4.実現に向けて取り組むこと	
節目ごとの情報共有 (途切れのない支援)	【自分たちの出来ること】 サポートファイルと一緒に作る。	短期	中期～長期
	【協力をお願いしたいこと】 途切れなく支援できるように連携		
関係機関のネットワーク作り (センター的機関がほしい)	【自分たちの出来ること】 関係機関の明確化	短期	中期～長期
	【協力をお願いしたいこと】 情報提供		
本人・家族への特性理解	【自分たちの出来ること】	短期	中期～長期
	【協力をお願いしたいこと】		